

## 2021年3月期第3四半期決算電話会議説明および議事録

参考資料:2021年3月期第3四半期決算説明資料

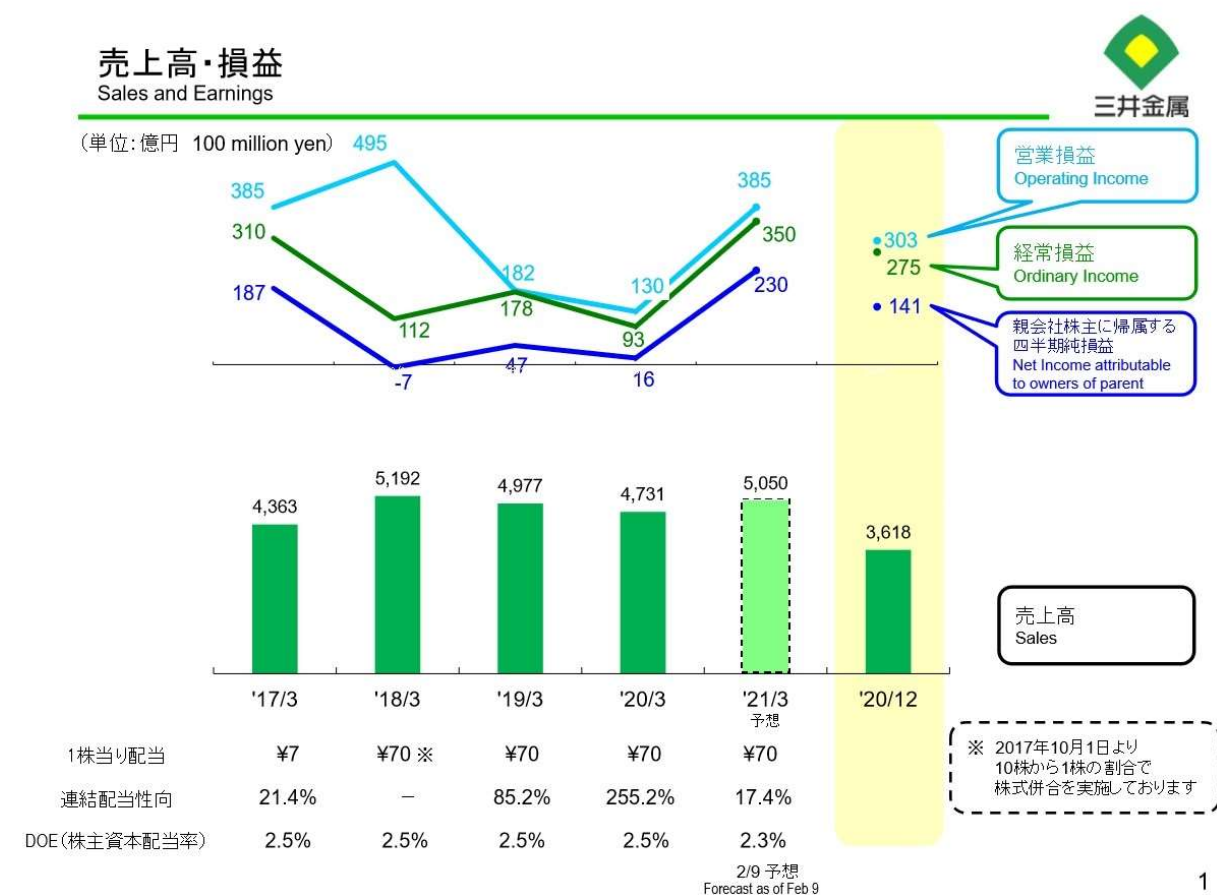
[https://www.mitsui-](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=HdKi6txGGeE%3d&tabid=123&mid=1060)

[kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=HdKi6txGGeE%3d&tabid=123&mid=1060](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=HdKi6txGGeE%3d&tabid=123&mid=1060)

(補足) PKG : パッケージ基板

HDI : マザーボード(High Density Interconnect)

### ■ご説明



決算説明資料1ページをご覧ください。

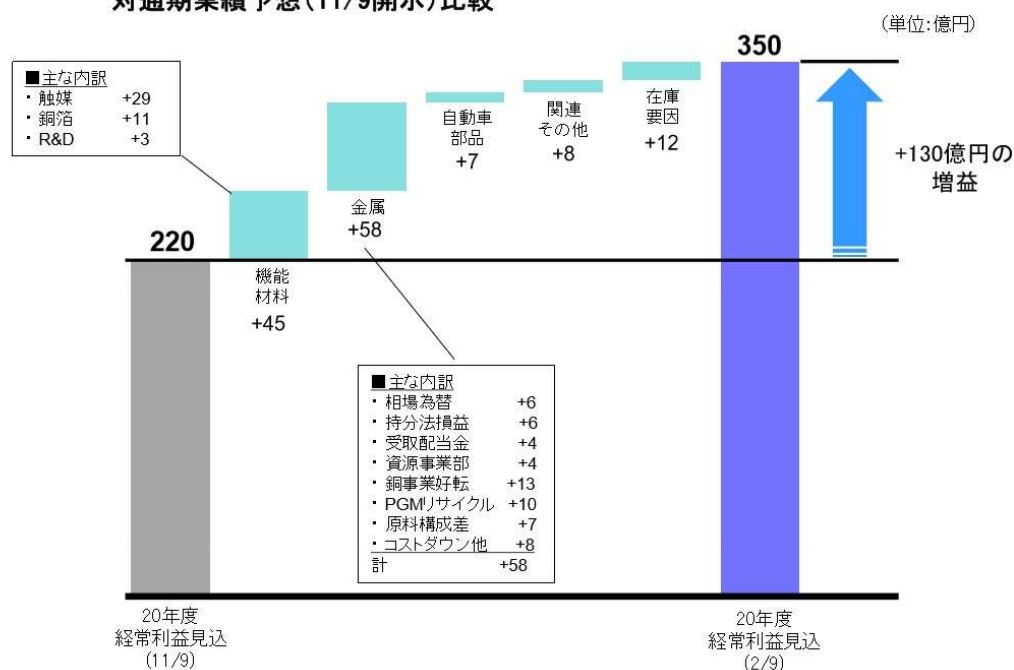
・第3四半期累計での売上高は3,618億円、営業利益は303億円、経常利益は275億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は141億円となりました。

・2021年3月期の連結業績予想は、売上高5,050億円、営業利益385億円、経常利益350億円、当期純利益230億円を見込んでいます。なお、1～3月の諸元については、LME亜鉛価格2,600ドル/トン、LME鉛価格2,000ドル/トン、LME銅価格350¢/ポンド、為替は103円/ドルを前提としています。

・配当につきましては、1株当たり70円とし、これまで公表している配当予想から修正しておりませんが、今後、当連結会計年度の業績、財政状態および配当の継続性等を勘案して決定してまいります。

20年度経常利益は 350億円を見込む

対通期業績予想(11/9開示)比較



11月9日公表の2020年度通期業績予想との対比について、資料2ページをご覧ください。

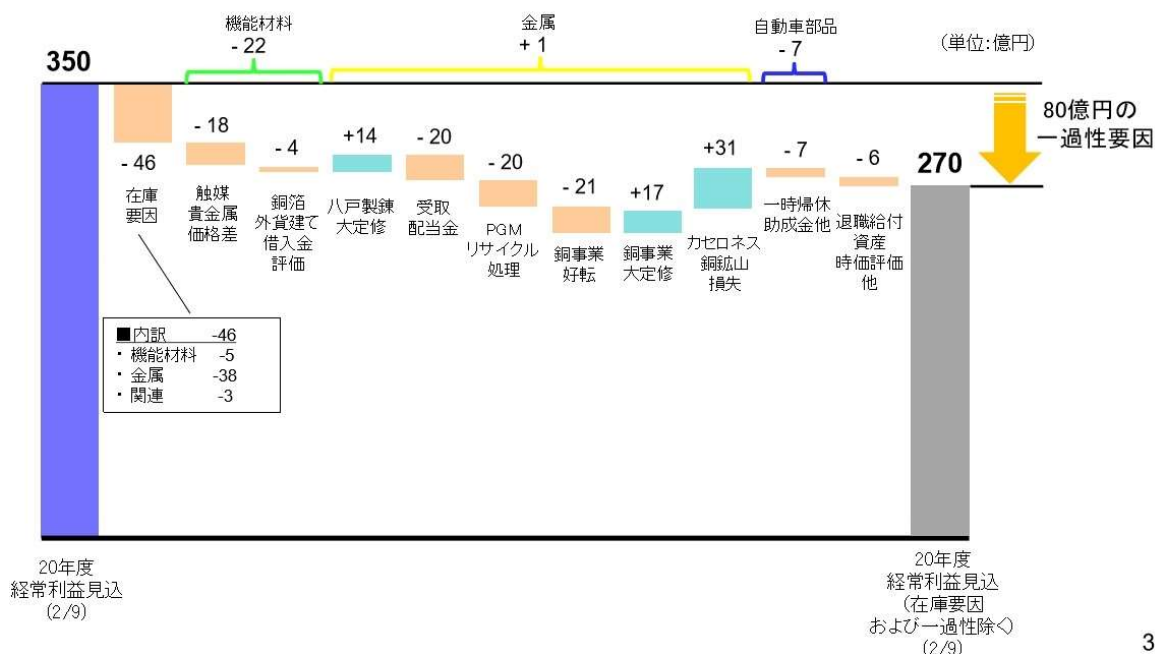
・11月9日公表の経常利益見込みは220億円としておりましたが、これを130億円上方修正し、350億円を見込んでいます。セグメント別に見ると、機能材料セグメントにおいて45億円の上方修正となりました。貴金属価格が上昇したことによる影響などから、触媒事業で29億円の上方修正、MicroThin™の販売が想定より上振れていることから銅箔事業で11億円の上方修正が主な要因です。金属セグメントにおいては58億円の上方修正となりました。内訳は記載の通りですが、相場の上昇や銅事業における採収率の好転などが主な要因です。自動車部品セグメントにおいては、中国を中心に販売量が上振れたことにより、7億円の好転となっています。

# 在庫要因および一過性要因除く20年度経常利益見込

FY 2020 Ordinary Income Forecast excluding inventory factors and transient factors



今回の20年度経常利益見込350億円から、在庫要因や一過性要因を除く  
20年度経常利益見込は270億円



次に今年度の経常利益見込みにおける一過性要因についてご説明いたします。資料3ページをご覧ください

・今年度の経常利益見込みは350億円ですが、その中に含まれる一過性要因について記載しております。一過性要因として、在庫要因が46億円のプラスサイド、機能材料セグメントで22億円のプラスサイド、金属セグメントで1億円のマイナスサイド、自動車部品セグメントで7億円のプラスサイド、加えて退職給付資産の時価評価の影響などにより6億円のプラスサイドの影響を含んでおり、トータルで80億円、プラスサイドで含まれておりますので、今年度の一過性要因を除いた経常利益見込みは270億円となります。

## 損益計算書 Statements of income



(単位: 億円 100 million yen)

	実績 Results			通期見通し Forecast				
	'20/Q1-3	'19/Q1-3	増減 Difference	2020 今回予想 Forecast	2019	増減 Difference	2020 11/9 予想 Forecast as of Nov 9	増減 Difference
売上高 Net Sales	3,618	3,559	59 1.7%	5,050	4,731	319 6.7%	4,800	250 5.2%
売上原価 Cost of sales	2,932	3,026	-94 -3.1%	-	-	-	-	-
売上総利益 Gross Profit	687	533	154 28.8%	-	-	-	-	-
販売費・管理費 SG&A expenses	384	411	-28 -6.7%	-	-	-	-	-
営業利益 Operating Income	303	122	181 148.2%	385	130	255 195.3%	260	125 48.1%
営業外収支 Non-operating income/expenses-net	-28	-6	-22	-35	-37	2	-40	5
経常利益 Ordinary Income	275	116	159 136.6%	350	93	257 275.6%	220	130 59.1%
特別損益 Extraordinary profit/losses-net	-88	-9	-80	-38	-35	-3	-38	-1
税引前利益 Net Income before income taxes	187	108	79 73.6%	312	58	254 435.2%	182	129 70.9%
税金費用・非支配株主帰属損益 Income taxes & minority interests	47	45	1	82	42	40	72	9
親会社株主に帰属する 当期純利益 Net income attributable to owners of parent	141	63	78 124.5%	230	16	214 1368.5%	110	120 109.1%

4

資料4ページの損益計算書をご覧ください

・第3四半期累計期間は、前年同期に対し、貴金属価格が上昇したことにより触媒事業部における売上が増加したこと等から、売上高は+59億円(+1.7%)増加の3,618億円となりました。営業利益は、第1四半期において、新型コロナウイルスの影響に伴い主要製品の販売量が減少したものの、第2四半期以降、自動車市場の回復等を背景に需要も回復基調で推移したことに加え、非鉄金属相場の変動に伴う在庫要因の好転や、コストダウンを実現したこと等により、前年同期比181億円(+148.2%)の好転で303億円、経常利益は+159億円(+136.6%)の好転で275億円、当期純利益は銅事業再編による特別利益+136億円、カセロネス銅鉱山の権益譲渡に係る損失見積額▲205億円等の影響もあり、78億円好転の141億円となりました。

・通期見通しについては、このあと、セグメント毎にご説明いたします。

## セグメントの業績(1) 機能材料

Performance by Segment – Engineered Materials



(単位: 億円 100 million yen)

	2020 Q1-3	2019 Q1-3	増減 Difference	FY2020 (今回予想) Forecast	FY2019	増減 Difference	FY'2020 (11/9予想) Forecast as of Nov 9th	増減 Difference
■売上高 Sales	1,395	1,251	144	1,940	1,678	262	1,810	130
■営業利益 Operating income	167	110	57	211	151	60	157	54
■経常利益 Ordinary income	154	109	44	193	134	59	143	50
※実力損益 Real income	151	133	17	188	161	27	143	45

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

### 経常利益の増減説明

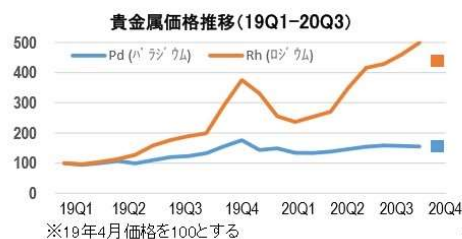
[ '19/Q1-3 → '20/Q1-3 +44 ]

薄膜材料在庫要因 +27  
銅箔 +14 (MicroThin™増販他)

[ 'FY2019 → 'FY2020今回予想 +59 ]

薄膜材料在庫要因 +32  
銅箔 +23 (MicroThin™増販他)

(機能材料製品)	(主な用途)
機能性粉体 (電池材料)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイブリッド車向けニッケル水素電池</li> <li>・電気自動車向けリチウムイオン電池</li> </ul>
機能性粉体 (機能粉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種電子部品</li> <li>・ガラス研磨材</li> </ul>
触媒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二輪車・四輪車排ガス浄化用触媒</li> </ul>
銅箔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高密度パッケージ材料</li> <li>・プリント配線基板</li> </ul>
薄膜材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フラットパネルディスプレイ</li> </ul>



13

続きまして、セグメント毎の状況についてご説明いたします。  
最初に機能材料セグメントです。資料の13ページをご覧ください。

・第3四半期累計期間の経常利益は前年同期比で44億円増益の154億円となりました。増益要因としては、薄膜材料の在庫要因の影響が24億円のマイナスから3億円のプラスと約27億円好転したことや、銅箔における特にパッケージ向けのMicroThin™の販売が好調であったことがその要因です。

・経常利益の見通しについては11月9日の公表値に比べ50億円好転の193億円で見込んでおります。増益幅がもっとも大きいのは触媒事業で、貴金属価格が想定より高く推移したこと、また販売量が見込みよりも堅調に推移していることが主な要因です。また銅箔事業においても、MicroThin™の販売量が想定より上振れたことにより増益を見込んでいます。

## セグメントの業績(2) 金属

Performance by Segment – Metals



(単位: 億円 100 million yen)

	2020 Q1-3	2019 Q1-3	増減 Difference	FY2020 (今回予想) Forecast	FY2019	増減 Difference	FY2020 (11/9予想) Forecast as of Nov.9th	増減 Difference
■売上高 Sales	1,359	1,216	143	1,890	1,611	279	1,860	30
■営業利益 Operating income	147	21	126	180	0	180	127	53
■経常利益 Ordinary income	137	16	121	160	-15	175	98	62
※実力損益 Real Income	90	59	31	122	69	53	64	58

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

金属価格・為替の推移 Metal Prices and FOREX

		19/Q1				20/Q1			
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
亜鉛 Zn	\$/t	2,763	2,345	2,384	2,128	1,959	2,340	2,631	2,600
亜鉛 (実効) Zn (Actual)	\$/t	2,676	2,427	2,442	2,272	2,113	2,404	2,624	2,610
鉛 Pb	\$/t	1,886	2,029	2,038	1,847	1,670	1,876	1,903	2,000
銅 Cu (暦年表示 Q1-1-3月)	¢/lb	282	277	263	267	256	242	296	325
銅 Cu (Q1-4-6月)	¢/lb	277	263	267	256	242	296	325	350
為替 US\$	yen/\$	109.9	107.4	108.8	109.0	107.6	106.2	104.5	103.0
為替 (実効) US\$ (Actual)	yen/\$	110.0	107.8	108.1	108.3	107.8	106.7	105.0	103.7

2020年度年間損益感応度 (経常損益)  
Sensitivity to ordinary income (for FY2020)

		(億円 100 million yen)	
		フルオープン	予約含む
亜鉛(LME) Zn	±100\$/t	12.3	8.8
鉛(LME) Pb	±100\$/t	2.3	2.3
為替	US\$(yen/\$)	4.9	4.1

経常利益増減分析

	19/Q1-3 →'20/Q1-3	FY2019 →FY2020予想
相場・為替	-15	-11
T/C条件(亜鉛)	17	18
たな卸資産在庫要因	90	122
持分法損益	-23	-17
コース	10	12
受取配当金	20	20
その他 ※	22	31
合計	121	175

※その他の内訳

[ '19Q1-3 → '20Q1-3 +22 ]

・日比製錬取込み+23、八戸製錬大定修-14、  
PGMリサイクル +18

[ 'FY2019 → 'FY2020 +31 ]

・日比製錬取込み+22、八戸製錬大定修-14、  
PGMリサイクル +21

続きまして金属事業セグメントです。資料14ページをご覧ください

・第3四半期累計期間の経常利益は前年同期比で121億円増益の137億円となりました。増益要因として一番大きいのは棚卸資産の在庫要因です。前年度は価格が下落傾向であったためマイナスで計上していましたが、今年度は上昇傾向であったことから、合わせて90億円の増益要因となりました。非鉄相場については、亜鉛・鉛ともLME価格が下落しましたが、日比共同製錬の取り込み効果やコジャワシ銅鉱山からの配当の影響もあり、トータルで大きく増益となりました。

・経常利益の見通しについては11月9日の公表値にくらべ62億円好転の160億円で見込んでおります。内訳は資料2ページに記載の通りですが、ひとつの大きな要因による影響というよりは、細かなプラスサイドの積上げにより大きく上方修正しております。

## セグメントの業績(3) 自動車部品

Performance by Segment – Automotive Parts & Components



(単位: 億円 100 million yen)

	2020 Q1-3	2019 Q1-3	増減 Difference	FY2020 (今回予想) Forecast	FY2019	増減 Difference	FY2020 (11/9予想) Forecast as of Nov.9th	増減 Difference
■売上高 Sales	588	703	-116	820	906	-86	770	50
■営業利益 Operating income	9	6	3	9	1	8	-2	11
■経常利益 Ordinary income	13	9	4	12	5	7	5	7

[三井金属アクト]	(主な用途)
自動車部品 	・自動車用ドアロック

経常利益増減分析	19/Q1-3 →'20/Q1-3	FY2019 →FY2020予想
増減販	-49	-37
原価低減	56	53
その他	-3	-9
合計	4	7

続きまして自動車部品セグメントです。資料15ページをご覧ください。

・第3四半期累計期間の経常利益は前年同期比で4億円増益の13億円となりました。新型コロナウイルス感染拡大の影響によりQ1の自動車用ドアロックの販売量が大幅に落ち込んだ影響は大きかったものの、大幅なコストダウンを実現し、結果的には前年同期比でプラスとなりました。

・経常利益の見通しについては、中国を中心とした売上増により、11月9日の公表値に比べ7億円増加の12億円を見込んでいます。第4四半期は、春節の影響で中国向けの販売が減少することや輸送費の増加などの影響でマイナス1億円となる見込みです。

## 持分法損益 Equity gains or losses



(単位: 億円 100 million yen)

	2019							2020 見込								差異 Diff.
	Q1	Q2	上期 1st H	Q3	Q4	下期 2nd H	FY 2019	Q1	Q2	上期 1st H	Q3	Q4 見込	下期 2nd H 見込	FY 2020 見込 (2/9)	FY 2020 見込 (11/9)	
機能材料 Engineered Materials	1	1	2	1	1	2	4	0	-0	-0	0	0	1	1	1	-0
金属 Metals	2	-8	-6	-4	-9	-13	-19	-22	-5	-28	-5	-4	-9	-36	-42	6
自動車部品 Automotive Parts & Components	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
関連 Affiliate Coordination	0	-1	-1	1	1	2	1	-2	3	1	3	5	8	9	3	6
その他 Others	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計 Total	3	-8	-5	-2	-7	-10	-14	-24	-3	-27	-2	1	-0	-27	-39	12

銅 (¢ / lb) Copper	282	277	280	263	267	265	272	256	242	249	296	325	311	280	265
為替 (Yen/\$) Forex	109.9	107.4	108.6	108.8	109.0	108.9	108.8	107.6	106.2	106.9	104.5	103.0	103.8	105.3	106.0

※銅価格は暦年(Q1: 1-3月)で表示

10

「持分法損益」については資料10ページをご覧ください。

・金属セグメントのうち、カセロネスはQ1▲22億円、Q2▲3億円、Q3▲6億円で、20年度合計▲31億円の見込みです。PPC製錬はQ1はトントン、Q2▲2億円、Q3+1億円、Q4▲4億円、20年度▲5億円の見込みです。



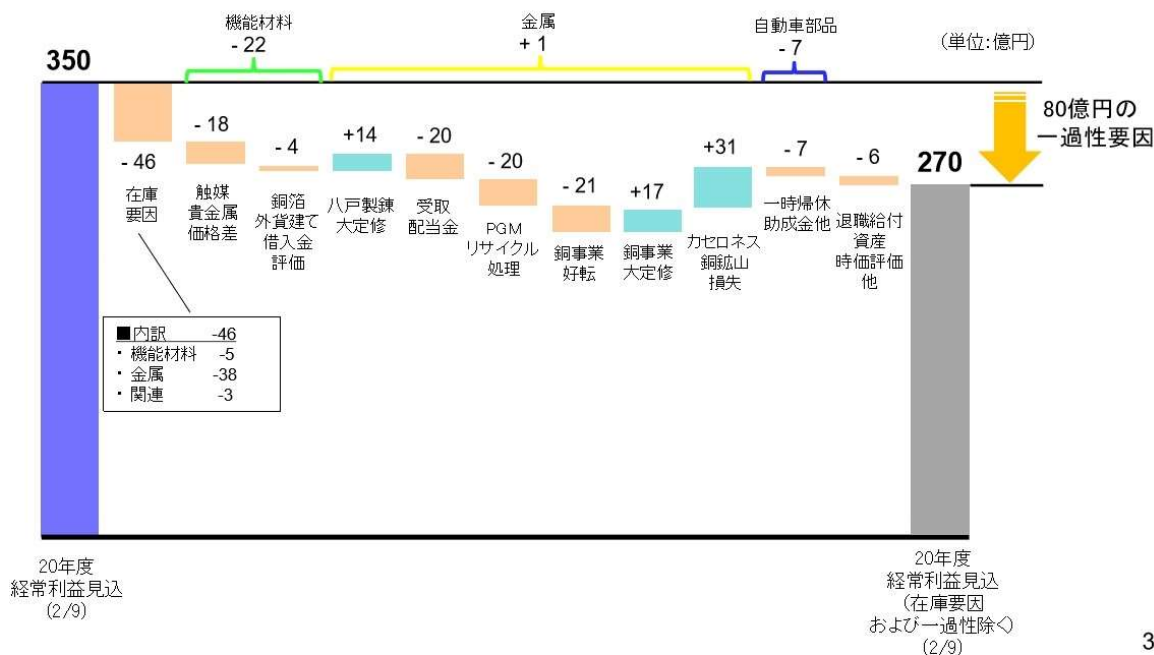
■ 質疑応答

【全体】

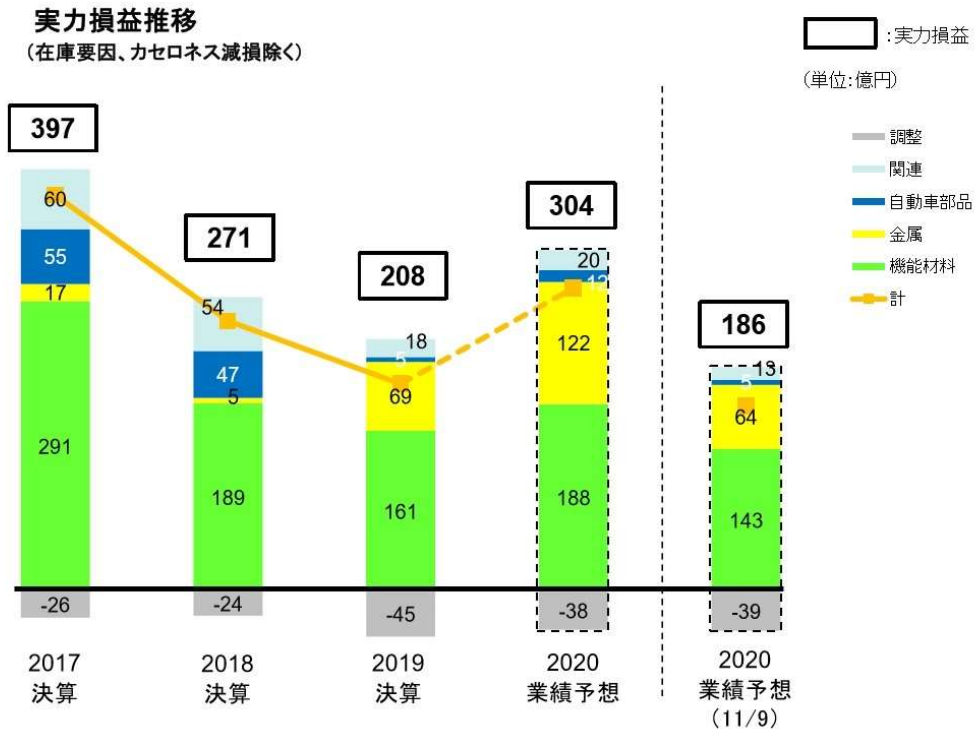
在庫要因および一過性要因除く20年度経常利益見込  
FY 2020 Ordinary Income Forecast excluding inventory factors and transient factors



今回の20年度経常利益見込350億円から、在庫要因や一過性要因を除く  
20年度経常利益見込は270億円



- Q. 貴金属相場や非鉄相場といった市況上昇による影響は非常に大きいと思われるが、仮に市況が横ばいであるならば、この(決算説明資料P3の)270億円をたたき台に来期予想を作ればよいのか。また市況が下落してきた場合にはどのような影響が出るのか教えて下さい。
- A. 決算説明資料P3で示している270億円がそのような価格の増減に伴って、実力外で出る部分を排除した実力と考えており、スタートラインはこの金額になると考える。また、市況が下落してきた場合の影響については、プラスと同じようにネガティブサイドが出てくることになる。ここに関しては、在庫の管理等をしっかりと行うことで、ネガティブサイドのインパクトを出来るだけ減らす準備をしなければならないと考えている。



- Q. (決算説明資料P16) 実力損益の説明があるが、前回11月説明の186億円と今回の一過性要因を除いた270億円は同じ定義と理解してよいか、また、そうでなければ、同じ目線での実力値の変化を解説して下さい。
- A. 前回11月説明の186億円は経常利益から在庫要因のみを差し引いた数字。そのため、同じ基準の場合、350億円から在庫要因の46億円を引いた304億円が同じ基準での金額となる。今回、経常利益が上振れとなったが、在庫要因以外の一過性要因も多く含まれていることを示したく、決算説明資料P3の形で説明させていただいた。
- Q. 各セグメントの利益の動向について、機能材料、金属、自動車部品がQ3からQ4にかけて減益になっている要因について解説をお願いします。
- A. 機能材料については、Q3からQ4にかけて大体30億円の減益となっており、主に触媒が10億円強、銅箔が10億円弱、研究開発費の増加が5億円。あとは、薄膜材料といった内訳。触媒については貴金属価格の影響がQ3の方がQ4よりも多くでていること、Q3にスクラップの売却が含まれていることもあり減益の方向となる。  
金属については、在庫要因を除いたところではQ3、Q4とも32億円ずつで、ほぼ同じ利益水準となる。  
自動車部品については、旧正月の影響で中国の売上が減少すること、中でもマージンが少し高めの製品が販売減になることや費用において、Q4で自動車部品の開発費が一括で発生すること、輸送費の上昇や鋼材価格の上昇といったコストアップ要因等を織り込んで悪化と見ている。
- Q. 前回11月の説明で、通期のFCFが±0、期末のNet D/Eレシオが1.44という目標値があったと思うが、業績が上振れてきていることでこの辺りの見方も変わってきているのか、もし、着地の見通しがあるようであれば確認させて下さい。
- A. Q3決算では、借入金は2,500億円を若干下回る程度で着地した。D/Eレシオについては、現在、財務対策等も進めており、従来公表している数値より下回るところで着地すべく、Q4にかけて引き続き努力していく。貴金属価格や金属相場影響のマイナスサイド、それから在庫削減等のプラス

サイド、それらを合わせて借入金の削減、CFの増加に努めたいと考えている。

【機能材料セグメント】

- Q. 触媒の上方修正の要因について、貴金属価格の上昇による影響と数量効果の影響について内訳を教えてください。
- A. 触媒の29億円について主に貴金属価格の上昇による影響。前回11月の業績予想には、触媒の貴金属価格の影響を下期▲8億円と見込んでいたが、貴金属価格の上昇もあり、結果としてQ3+9億円となった。また、Q4においても足元貴金属価格が上がっていることもあり+5億円、下期トータルで+14億円を見込んでおり、▲8億円と+14億円との差、+22億円が貴金属価格の影響による。

主要製品の動向  
Trends of products



		2018					2019					2020					2020予想(5/29)					
		Q1	Q2	Q3	Q4	年間	Q1	Q2	Q3	Q4	年間	Q1	Q2	Q3	Q4 見込	通期見込 (2/9)	通期予想 (11/9)	上期	下期	通期		
機能材料	MH合金 MH alloy	販売量 Volume of sales	100	98	109	103	102	102	105	108	112	107	78	104	106	113	100	101	82	123	103	
		指数 Index																				
	二輪触媒 Catalysts for 2W	販売量 Volume of sales	100	101	90	86	94	93	96	96	101	96	45	119	119	116	100	96	72	123	97	
		指数 Index																				
	インド向け	販売量 Volume of sales	(100)	(101)	(77)	(71)	(87)	(88)	(90)	(83)	(109)	(93)	(36)	(156)	(145)	(134)	(118)	(113)	(72)	(150)	(111)	
		指数 Index																				
	インドネシア向け	販売量 Volume of sales	(100)	(113)	(109)	(121)	(111)	(96)	(105)	(113)	(111)	(106)	(38)	(68)	(63)	(89)	(64)	(73)	(72)	(106)	(89)	
		指数 Index																				
	その他地域向け	販売量 Volume of sales	(100)	(97)	(103)	(93)	(98)	(98)	(100)	(110)	(86)	(98)	(62)	(86)	(103)	(99)	(87)	(79)	(71)	(92)	(82)	
		指数 Index																				
四輪触媒 Catalysts for 4W	販売量 Volume of sales	100	111	131	121	116	128	134	125	130	129	78	157	166	164	141	135	112	158	135		
	指数 Index																					
銅箔 Copper foil	販売量 Volume of sales	千t	2,400	2,460	2,020	1,930	2,200	2,320	2,520	2,530	2,250	2,400	1,860	1,960	1,780	2,270	1,970	1,930	2,310	2,410	2,360	
	指数 Index																					
MicroThin™ (a) + (b)	販売量 Volume of sales	100	116	93	57	92	84	117	102	98	100	120	129	126	111	121	118	108	106	107		
	指数 Index																					
HDI向け MicroThin™ (a)	販売量 Volume of sales	(24)	(42)	(29)	(5)	(25)	(20)	(28)	(15)	(13)	(19)	(17)	(41)	(34)	(17)	(27)	(26)	(18)	(19)	(18)		
	指数 Index																					
PKG向け MicroThin™ (b)	販売量 Volume of sales	(76)	(74)	(64)	(52)	(67)	(64)	(89)	(87)	(85)	(81)	(103)	(88)	(92)	(94)	(94)	(92)	(90)	(87)	(89)		
	指数 Index																					
ITO	販売量 Volume of sales	100	92	99	89	95	87	97	97	95	94	90	79	93	87	87	86	92	94	93		
	指数 Index																					
金属	亜鉛 Zinc	生産量 Volume of production	千t	54	49	50	58	211	56	56	56	52	219	43	56	58	60	218	219	103	119	222
自動車部品	サイドドア ラッチ Side door Latches	販売量 Volume of sales	100	100	105	104	102	98	97	95	80	93	58	94	110	—	—	—	—	—	—	
		指数 Index																				
	日本向け	販売量 Volume of sales	(100)	(105)	(119)	(116)	(111)	(109)	(114)	(107)	(129)	(115)	(71)	(118)	(135)	—	—	—	—	—	—	
		指数 Index																				
	中国向け	販売量 Volume of sales	(100)	(105)	(102)	(92)	(100)	(90)	(91)	(98)	(39)	(80)	(92)	(98)	(112)	—	—	—	—	—	—	
	指数 Index																					
その他アジア向け	販売量 Volume of sales	(100)	(98)	(107)	(111)	(104)	(97)	(96)	(90)	(83)	(92)	(24)	(68)	(90)	—	—	—	—	—	—		
	指数 Index																					
欧米向け	販売量 Volume of sales	(100)	(94)	(98)	(104)	(99)	(100)	(92)	(89)	(86)	(92)	(31)	(87)	(100)	—	—	—	—	—	—		
	指数 Index																					

指数：2018年Q1を100として表示

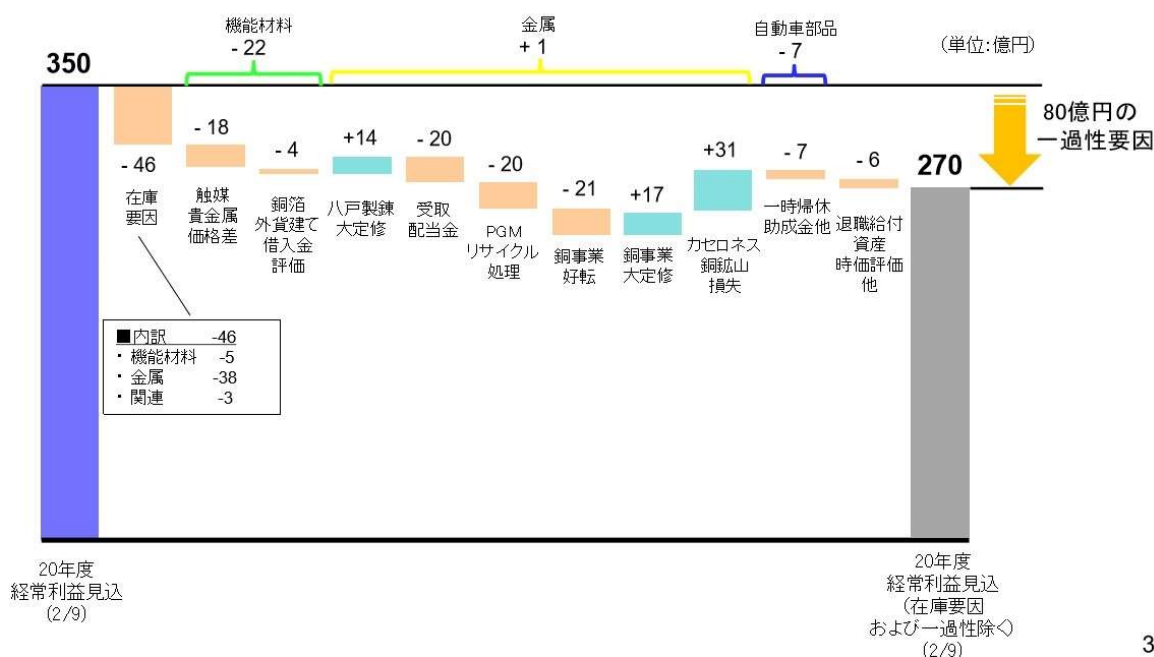
- Q. (決算説明資料P11)触媒のインド向けがCOVID-19以前よりも回復してきているのですが、排ガス規制の強化等で台当たりの原単位が上がっているといった、持続性のあるものなのか確認させて下さい。
- A. インド向けの数量については、インドの顧客が触媒の個数を1個から2個に増やした影響が大きい。
- Q. インドの触媒の個数増加については、増加自体は利益にプラスのインパクトを与えているという理解でよろしいですか。
- A. 利益的にもプラスに転じているという理解で間違いありません。
- Q. 極薄銅箔について、市場のトレンドについて教えてください。
- A. MicroThin™について、PKG向けについてはQ3、Q4とも高水準の受注を見込んでいる。PKG向けの中で、スマホ向けについては韓国・中国向けの受注が強く高水準だが、Q4は旧正月等の影響で少し落ちる見込みになっており、どちらかというQ3の方が好調。非スマホ向けについては、Q3はサーバー需要の調整等で少し落ちたが、Q4ではまた回復すると見ている。HDI向けについては、Q3までは2020年モデルの作りこみが続き、Q4でそれがなくなるという、前回11月同様、Q3からQ4にかけて落ちる見方で変わらない。

- Q. HDI向けについて、今年は面積が広がったという話があったが、新年のモデルについて採用されないということはないと思いますが、何か新しい話がありますか。
- A. 引き続き採用されるとは聞いている。あとは基板の面積が若干小さくなるという話も聞いている。一方で、韓国系、中華系への新規拡販についての話はない。
- Q. (決算説明資料P11)MicroThin™のPKG向けについて、2018年度から2020年度にかけて、かなり段階的に数量が増えているが、あらためて背景について説明して下さい。また、おそらくスマホ向けの原単位の上昇と、非スマホ向けの需要が生まれているということかと思いますが、このようなトレンドが将来も続きそうなのかどうかについてアップデートをお願いします。
- A. MicroThin™のPKG向けについては、スマホの高機能化に伴って部品点数が増加しており、MicroThin™の採用が増えている。また、非スマホ向けの5G関連のサーバーのメモリ向けも増えている。このトレンドはおそらく来年度以降も続くと考えるが、増加幅については現在精査中。
- Q. 電解銅箔について、少し停滞していたものがQ4は急に戻るような数字となっていますが、この辺りの背景について教えてください。
- A. 電解銅箔のうち、通信インフラ向けについては、Q2の途中から調整が始まり、Q3で数量減となったが、Q4に向けてサーバー向けの需要が戻ってきたことで、通信インフラ向けについては需要が回復すると見ている。フレキ向けについては、韓国系、中華系のスマホ向けが好調のため、Q2、Q3、Q4と数量増が続いている。
- Q. 通信インフラ向けの銅箔の回復について背景があれば教えてください。
- A. 一つは、サーバー向けの在庫調整が終わって好転したこと。もう一つが、米国から制裁を受けていた中華系の企業がビジネスを再開すると聞いており、それにより数量が増えている。
- Q. MicroThin™について、上尾がほぼフルキャパで動かされていたかと思います。その中で、マレーシアに一部、生産移管するといった話があったと思うのですが、その進捗度合いについて教えてください。
- A. 上尾については、確かに高稼働の状況が続いており、マレーシアへの生産移管を進めている。今年度、COVID-19の影響もあって予定より多少遅れているが、移管自体は順調に進んでおり、来年度も生産移管について進めていく予定。今後PKG向けの需要増加が見込まれるが、供給に問題が無いように進めていく。

在庫要因および一過性要因除く20年度経常利益見込  
 FY 2020 Ordinary Income Forecast excluding inventory factors and transient factors



今回の20年度経常利益見込350億円から、在庫要因や一過性要因を除く  
 20年度経常利益見込は270億円



Q. (決算説明資料P3)一過性要因のうち、銅事業の好転とPGMのリサイクルについてこれらの背景と一過性の理由について解説をお願いします。

A. 銅事業の好転は、前回11月にお話した通り、銅事業で受委託の契約数量よりも多く生産できたことによる。前回の業績予想の際には下期に数量増は発生しないと見ていたが、採収率の好転等もあり下期も契約以上の数量がでていた。これについては、来年度の数量増が不確かなことから、今期の一過性要因としている。

PGMリサイクルについて、前回の業績予想には、上期に処理が上手く進んだものの、下期は様子見で織り込んでいなかったが、下期も処理は順調に進んでいる。特に昨年度の安い原料を処理できたことで、昨今の貴金属価格の高騰による増益分があり、今年度はそのリサイクル処理で出た20億円を一過性と考えている

Q. PGMのリサイクルについては、基本的に量ではなく価格差が20億円出ているという理解でよろしいでしょうか。

A. 数量も出ているが、どちらかというと価格差が大きいと考えている。

以上